

## 2022 年度精密工学会春季大会報告

### 1. はじめに

2022 年度精密工学会春季大会を 3 月 15 日から 17 日の日程で、東京工業大学・大岡山キャンパスにて開催いたしました。大会の準備が本格化する 2021 年秋の時点では、全国的に新型コロナウイルスの感染状況はいったん落ち着いていましたが、前年の冬に感染が拡大した事実を踏まえて、秋の段階で現地での実施を断念しオンライン開催にするという苦渋の決定をしました。懸念したように、1 月から感染者が爆発的に増加する感染第 6 波に突入し、大会期間中も首都圏が“まん延防止等重点措置”の対象であったことから、結果的には正しい判断であったと考えています。

今回の春季大会では、大会 1 日目および 3 日目には学術講演会および卒業研究発表講演会（1 日目のみ）をオンラインリアルタイム方式で実施、大会 2 日目には東京工業大学・大岡山キャンパスにて贈賞式および特別講演を現地開催しその様子をオンライン配信する形式で実施しました。したがって、通常の春季大会で実施する各種企画、企業ブースの設置、各種委員会、懇親会などは実施することができず、大会期間中に参加者の交流の場を用意できなかったことは残念でした。

### 2. 学術講演会

本大会ではキーノート講演および一般講演を合わせて 425 件の学術講演が行われました。コロナ禍におけるこれまでの大会では、事前の動画提出による講演、動画再生＋リアルタイムでの質疑応答など、その形態は徐々に変化してきましたが、今大会ではオンライン会議ソフトウェア Zoom を使用したオンライン講演および質疑応答で実施いたしました。Zoom を選択した理由は、講演者の大部分を構成する学生が使用経験があるソフトウェアであること、大学の講義でも使用されるケースが多く、座長などを担当する大学教員も使用経験が豊富であることが理由でした。一方で、企業によってはセキュリティ面から Zoom 使用を

敬遠される場合もあり、一部の参加者にはご負担を強いることとなりましたことをお詫びいたします。

リアルタイム講演の場合、最も大きな懸念事項は、通信環境の問題による会議の停止でした。しかし、コロナ禍当初と比較して通信環境も整備されたこと、また会場とした大学の太い有線回線を使用するとともに（図 1）、万が一に備えて座長に共同ホストをお願いすることにより、幸いにも会期中に通信トラブルにより停止したセッションはありませんでした。また、講演者側の通信トラブルにより講演不能となる事態も想定し、会期終了後に講演録画日を設定しましたが、こちらも結果的に該当する講演はありませんでした。大きなトラブルがなくスムーズな講演会が実施できたことは、当日のオペレーションを担当したアルバイト学生をはじめ、参加者の皆様のご協力によるおかげであり、改めて御礼申し上げます。

一方で、大会 2 日目（3 月 16 日）の深夜に、福島県沖を震源とした最大震度 6 強の地震が発生しました。被災された方々にお見舞い申し上げます。幸いにも 3 日目の講演会に対して、この地震を原因とした悪影響もありませんでした。地震の影響により東北新幹線が約 1 ヶ月間不通となりましたので、現地開催であれば影響を受けた参加者もいたことでしょう。これまで精密工学会の大会は地震に大きな影響を受けることも複数回ありましたので、今回幸いにも大きな影響がなかったことに安堵しました。

### 3. 卒業研究発表講演会

春季大会では卒業研究発表講演会も同時に実施しています。本大会では大会 1 日目に計 51 件の講演が行われました。ほとんどの学生にとって初めての学会発表の機会と思われ、録画の講演ではあまり感じられない、リアルタイム発表の緊張を肌で感じている様子が伝わりました。特に質疑応答では、普段の指導教員ではなく、学外の初対面の専門家からのコメントに戸惑いまくる回答できない場面もありましたが、多くの講演者はなんとか回答しようとする一生懸命さが伝わり、非常によい経験になったことと思います。

### 4. 贈 賞 式

大会 2 日目の 3 月 16 日（水）15 時より、大岡山キャンパス内デジタル多目的ホールにて精密工学会各賞の贈賞式が行われ（図 2）、その様子はオンラインでリアルタイムで配信されました。今回の贈賞式では、新たに 5 名の名誉会員が紹介され、精密工学会論文賞 3 件、精密工学会沼田記念論文賞 2 件、精密工学会高城賞 2 件、精密工学会研究奨励賞 5 件の贈賞が行われました。

また今年から新設された精密工学会誌インパクト賞の発表も行われました。本賞は精密工学会誌に掲載された論文



図 1 講演会運営室の様子



図2 高増会長からの贈賞式



図3 稲川氏による特別講演

および記事の中で、年間のインターネットアクセス数の多いものに対して贈られる賞です。今回は第1回および第2回の合計10件の記事が贈賞されました。

続いて、精密工学会フェロー認定者4名、精密工学会アフィリエイト認定者7名が紹介され、さらに賛助会員企業において甲種および乙種あわせて24社に感謝状の贈呈が行われました。

また最後には、次年度の新役員27名、監事3名が紹介され、代表して藤嶋誠新会長よりご挨拶がありました。

## 5. 特別講演

贈賞式に引き続き同ホールにて特別講演が開催され、同時にオンライン配信されました。講演は「宇宙産業の展望と民間ロケット開発の取り組み」と題して、インターステラテクノロジズ(株)社長の稲川貴大氏により行われました(図3)。稲川氏は東京工業大学の機械系の卒業生であり、今後の発展産業となることが期待される民間ロケット事業に精力的に取り組んでおられることから講演をお願いし、ご快諾いただきました。講演開始時にオンラインソフトウェア上の問題で少々時間を要しましたが、講演開始後は順調に進みました。

講演では、宇宙ロケットビジネスは今後大きく発展する見込みである一方、JAXAや大手重工企業など限られた団体が中心となっており、ロケット開発に民間のベンチャー企業の参加が少なく逆にチャンスであることなどが説明されました。また、スタート時はものづくりサークルのような雰囲気、宇宙や機械が本当に好きな仲間が集まり、徐々に活動を拡大していった当時の様子を熱く語っていただきました。実際の打ち上げについても迫力ある動画を交えながら説明していただきました。

現在は北海道・大樹町とも連携し、「北海道に、宇宙版シリコンバレーをつくる」というスローガンのもと、打ち上げ拠点となるスペースポートの開発も行っており、宇宙開発活性化の基盤形成にも力を入れていることの紹介がありました。

## 6. 新技術講演会

本会の「賛助会員の会」が企画し実施する新技術講演会は、会員・非会員にかかわらず参加可能で、大会初日の3月15日(火)午後にはオンラインで実施され、76名の参加がありました。

第一部ニューテクノロジーフォーラムでは、「繋がる工場の先に、工場の見える化の先に、何がある？」と題し、(有)豊商事の澤田未貴様、群馬県立産業技術センターの小宅勝様、(株)ジェイテクトの小野崎徹様から、単なるICT技術ではなくその先の本来の目的などに関して、興味深い講演が行われました。

第二部先端企業・技術紹介セッションでは、精密工学会技術賞を受賞された(株)ナガセインテグレッタの新藤良太様、(株)ティ・ディ・シーの赤羽優子様、(株)ミットヨの吉田悟様より、各社の独創的な先端技術の紹介がありました。

## 7. おわりに

今回の春季大会では動画による講演ではなく、リアルタイムのプレゼンテーションおよび質疑応答を実施しました。実施前に懸念していた通信トラブルによる講演キャンセルや運営側の機器が停止するなど突発的なアクシデントもなく、講演者および参加者のご協力により大過なく実施でき、大変安堵した次第です。精密工学会理事の皆様、実行委員の先生方、アルバイト学生、ならびに東京工業大学事務、学会事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。

本来であれば皆様を大岡山へお迎えし、今にも開花しそうな桜の巨樹を愛でるよい季節であっただけに、現地開催できなかったことは心残りであります。次回以降の大会では新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、今回が最後のオンライン実施の大会となることを心より願っております。

(文責：実行委員会幹事 吉岡勇人)